

学生クラウドファンディング利用に関するQ&A

(READYFOR×大学) クラウドファンディングについて

Q1-1：大学を介さずに個人でクラウドファンディングを実施することは可能ですか？

A：本学の名称を一切使用しないのであれば、可能です。本学の名称を使用する場合は、本学の規則に基づき、「READYFOR×大学」型のクラウドファンディングとして実施する必要があります。

Q1-2：公認サークルが、サークル名のみ記載して、大学を介さずにクラウドファンディングを実施することは可能ですか？

A：公認サークルは大学の活動とみなされるので、「READYFOR×大学」型のクラウドファンディングとして実施する必要があります。

Q1-3：プロジェクト代表者は他大生で、その他のメンバーは東工大生です。大学を介さずにクラウドファンディングを実施しても良いでしょうか？

A：本学の名称を一切使用しないのであれば可能です。本学の名称を冠して実施するのであれば不可です。

Q1-4：本学の学生ですが、小さな会社を経営しており、特許も取得しています。本学のクラウドファンディングを利用して利益を目的とした資金を集めても良いでしょうか？

A：本学の実施するクラウドファンディングは投資型ではなく寄附型ですので、利用できません。

Q1-5：クラウドファンディングを利用して起業をしたいと考えています。READYFOR以外の事業者を使用しても良いでしょうか？

A：本学の名称を一切使用しないのであれば可能です。

Q1-6：サポートプランを利用する場合、READYFORのキュレーターサポートの期間はいつまでですか？

A：支援募集期間完了時までとなります。ただし、契約開始後2か月以内にプロジェクトを公開できなかった場合は、サポート終了になることもありますので、ご注意ください。

Q1-7：キュレーターは具体的に何をしてくれますか？

A：キュレーターは以下のサポートをします。

- 準備～公開期間中の個別サポート
- 魅力を最大限に伝えるプロジェクトページ作成のアドバイス
- 円滑なプロジェクト進行のための全体スケジュールのご提案
- 支援者のニーズに合わせたリターン設計のアドバイス

Q1-8：キュレーターを利用しないベーシックプランを利用できますか？

A：利用可能です。

Q1-9：「All In 型」を利用できますか？

A：利用できます。ただし、All In型を選択して寄附金が目標額に達しなかった場合においてもプロジェクトを計画通り実施することが求められます。本学では、「All or Nothing 型」の利用を強く推奨しています。

Q1-10：All or Nothing型を選択し、プロジェクトページを公開しましたが、残念ながら、目標額を達成できませんでした。手数料はかかりますか？

A：手数料はかかりません。

Q1-11：途中でプロジェクトを中止しました。キャンセル料は誰が負担するのですか？

A：原則、プロジェクト申請者にキャンセル料を負担していただきます。

Q1-12：いつからキャンセル料がかかりますか？

A：READYFOR との「契約開始日」以降、キャンセル料が発生します。クラウドファンディング申請手順の図を参照ください。

Q1-13：寄附募集期間の最大日数は何日ですか？

A：All or nothing型の場合59 日です。

All in型の場合90日です。

Q1-14：寄附金はいつ使えるようになりますか？

A：通常は「寄附募集期間満了日の翌々月 10 日まで」に本学に入金されます。その後、学内手続き（1 週間程度）を経て寄附金を使用できるようになります。ただし、早期入金オプションを利用すれば、入金を早めることも可能です（Q1-15 参照）。

Q1-15：早期入金オプションとは？

A：早期入金オプションを利用することで（手数料：3 万円+税、または達成金額×3%+税のいずれか高いほう。ただし、上限は165,000円（税込））、「寄附募集満了日の翌週 3 営業日以内」に寄附金が本学に入金され、その後、学内手続き（1 週間程度）を経て寄附金を使うようになります。しかしながら、READYFOR から本学へは手数料を差し引かれた金額が振り込まれるため、実際に活動に充当できる金額も手数料分減ることになります。その点を十分理解した上で、オプションの利用を検討してください。

なお、早期入金オプションを利用する場合は、申請時に学生支援センター学生クラウドファンディング窓口（以降「学生CF窓口」という）に必ずご相談ください。万が一、クラウドファンディング開始後に早期入金オプションを希望される場合にも、必ずオプション申込の前に学生CF窓口にご相談ください。

Q1-16：当初の目標金額を達成したので、[ネクストゴール](#)を設定したいです。

A：追加金額の使途・目的を明確に決め、事前に学生CF窓口までお知らせください。なお、ネクストゴールの目標金額を達成できなくても、寄附金は受け取ることができます。

Q1-17：[ネクストゴール](#)を設定しました。手数料はどの金額にかかりますか？

A：ネクストゴールの設定の有無に関わらず、「READYFOR への手数料」は、最終的な寄附金総額に対してかかります。

学内申請に関して

Q2-1：申請者は誰になりますか？

A：申請者は本学の教員である必要があります。公認サークルの場合、原則、顧問教員が申請者になります。

Q2-2：研究費の確保のためにクラウドファンディングの利用を検討しています。申請者は、研究室の教員でなければなりませんか？

A：本学の学生向けクラウドファンディングは、原則、学生の課外活動等への支援を前提にしています。それ以外はケースごとの判断になりますので、学生CF窓口までご相談ください。

Q2-3：インカレ団体ですが、本学のクラウドファンディングの利用を考えています。申請にあたり、団体における科学大生の人数の割合など、何か条件はありますか？

A：人数割合などの基準は特に定めていません。プロジェクトが本学の活動として認められるかどうかで判断します。

Q2-4：団体の代表学生が卒業間近です。代表学生と後継者の連名で実施者として申請することは可能でしょうか？

A：可能です。また、卒業予定の団体代表者を実施者として、「実施者卒業後は〇〇が引き継ぐ」と申請書に明記していただいても結構です。

Q2-5：プロジェクトの実施期間及び活動スケジュールが複数年度に渡っても良いでしょうか？

A：実施期間及び活動スケジュールが複数年度に渡っても構いません。クラウドファンディングで集まった寄附金は、複数年度に渡って使用できますが、1年以内の使用を推奨しています。

Q2-6：寄附金をロゴマークの作成やシステム開発補助などの名目で使用しても良いでしょうか？

A：申請書の寄附金使途にあらかじめ記載されていれば使用可能です。本学の会計規則に従って使用する必要があります。

Q2-7：寄附金が本学へ振り込まれるより前に使用した経費（立替払い）に対して、寄附金を後から利用することはできますか？

A：利用できません。Q1-14に記載のとおり、寄附入金後、学内手続き（1週間程度）を経て、使用できるようになります。

Q2-8：プロジェクトの成果物の知的財産権は誰に帰属しますか？

A：起業を目的としたプロジェクトで得られた寄附金を、システム開発やロゴの作成の委託等、知的財産権が発生する支出に、直接使用した場合、その知的財産権は、原則、本学に帰属します。

なお、寄附金による活動（概念実証（POC）やプロトタイプ制作、外部ピッチイベント等への参加等）により得られた知見をもとに学生が自ら発明を行い、発生した特許権等の知的財産権については、原則、学生個人に帰属します。（出願費用は個人の負担となります。）

起業を目的としたプロジェクトにおける寄附金の使途については、ケースバイケースでの判断が必要となりますので、必ず本学担当者に相談してください。

Q2-9：本学のクラウドファンディングを利用すると、どのような学内サポートを受けられますか？

A：学生CF窓口を通じて、以下のサポートを受けることができます。

- プロジェクトの申請内容についての事前相談
- 学内広報への協力（科学大 HP掲載や科学大卒業生への周知）
- READYFOR とのやりとりのフォロー
- 寄附者への領収書発行及び発送の代行

※こちらに掲載されていない質問等に関しては、申請書様式の別記留意事項を参照の上、学生CF窓口までお問い合わせください。